

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和4年(2022年)10月発行

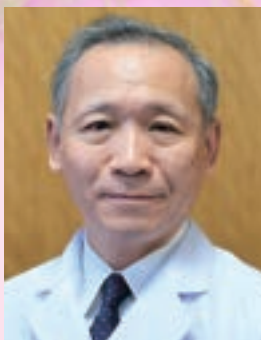
熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2022 **11** 通算210号
月号

COVID-19の今後と当センターの病院建築計画

院長 ^{すぎた} 杉田 ^{ひろき} 裕樹



秋が深まり、朝晩の冷え込みに早くも冬が来たかのように感じられるようになりました。

2019年末中国武漢で発生したCOVID-19は、その後パンデミックとなり、もうすぐ3年を経過しようとしています。COVID-19の危険性と今後のあるべき対応について私なりに考えてみました。

WHOによると2022年10月中旬現在までに世界の感染者は6億2千万人余り、そのうちの死者は650万人余りであり(単純計算で死亡率は1.02%)、日本における感染者は2200万人弱、そのうちの死者は4.6万人弱です(単純計算で死亡率は0.21%)。第90回厚生労働省アドバイザリーボードの資料6によると、新型コロナ・デルタ株流行期の致死率は、60歳未満で0.08%、60歳以上で2.5%であったのが、オミクロン株流行期の致死率は、60歳未満で0.01%、60歳以上で1.99%です。オミクロン株となり致死率は低下していますが、高齢者のそれは依然高い値を示しています。ちなみに、季節性インフルエンザにおいて60未満の致死率は0.01%でありオミクロン株と同等ですが、60歳以上においては0.55%であり、オミクロン株の方が高いといえます(データの解釈には注意が必要ですが)。つまり高齢者や基礎疾患を有するいわゆるハイリスク患者における死亡率は高いことが問題だといえそうです。また、感染力が強いため発生数が増加すると重症者、死者数が増加する事も留意すべき点だと思います。メタ解析によりワクチン接種が感染、重症化、死亡の予防に効果があるというデータ、またオミクロン対応のワクチンは従来のものよりも効果が高いというデータが出ています。やはりワクチン接種率を高めることが重要であるということだと思います。

さてこのパンデミックはいつ終息するかという問いには、現在のところ誰も答えることが出来ないのが真実だと思います。第7波は多くの感染者、

死亡者を出しましたが、現時点では減少の一途をたどっており入院が必要な患者は激減しています。政府はウイズコロナに向けて完全に舵を切って、旅行支援を行うようになり、また海外からの入国者に対する水際対策が緩和されました。これまで社会活動は抑制されていましたが、3年ぶりに開催されるイベントや対面で行う会議・学会等も増えてきてるなど活発になり始めています。今はウイズコロナとして、ハイリスクの人々を十分ケアしながら社会活動を行い、もしも第8波や新規変異株が到来した場合は、速やかに対応するというような事が重要なのだと思います。ちなみに、当センターでは感染対策を十分行いながら、徐々に学生実習生の受入、終末期の入院患者さんへの面会の緩和、職員の学会への現地参加、個人旅行、会食(人数制限あり)の緩和等を行って来ました。今後も状況を見ながら対応して参りたいと思います。

話題は変わり、当センターの病院建築計画ですが、9月12日の医師会建設委員会にて設計・施工会社の公募することが決定となり、10月14日から公募が開始されました。計画では、プロポーザル方式で来年早々にも設計施工会社を選定する事になっています。病院建て替えは熊本市医師会員や病院職員の悲願であり、長年の構想がやっと現実のものとなって来ています。当初の予定では2020年春に公募する予定でしたがCOVID-19パンデミックにより約2年半の間全くストップしてしまっていました。その間も施設の老朽化は進み、患者さんや職員に我慢が強いられています。この2年半の間に半導体不足、ロシアのウクライナ侵攻、物価高、円安など多数の問題が出てきているのが現実であり、建築においては逆風とも言える中ではありますが、順調に建て替えが進行する事を願います。

最後に当センターは益々医師会員の皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、今後とも当センターにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

～放射線科～

放射線科部長 まつかわ 松川 てつや 哲也



熊本地域医療センター放射線科部長をやっております松川です。当院に赴任してあっという間に18年が経過しました。この18年の間に多くの医師会の部会に参加させて頂き、胃癌・乳癌検診班会議や熊本市医師会

代議員を経験させて頂き、他の多くの熊本医師会の会議に参加させて頂きました。そのおかげで多くの医師会の先生方と知り合うことができ、熊本県の勤務医の放射線科医では最も医師会の先生方との関係が深い医師になれたのではないかと自負しています。そのおかげでどこの放射線科医のそれよりも画像診断に関して相談して頂きやすい存在になれているのではないかと思います。

それでは、放射線科の紹介をさせて頂きます。当院の放射線科スタッフはベテランの放射線科診断専門医の自分と矢村先生が責任をもって所見を記載しています。他に放射線科入局2～4年の若い専門医ではない放射線科医が修練のためもう一人在籍し3人体制で診療を行うことがほとんどです。自分が当院に赴任し、最初に考えたのは、医師会の先生方の画像診断センターとして十分に機能するためにはどのようにすればよいかということでしたが、得られた結論は安全な画像検査の実施と必要とされるわかりやすい所見を記載することでした。当たり前のことですが、実際なかなか難しいと思っています。今も十分と言えるのかわかりませんが、とりあえず当院の取り組みについて紹介させて頂きます。

現在当たり前のように施行されるCT、MRI検査ですが、実は造影剤による副反応、MRIでの高磁場によるインプラントによる人体障害など様々な危険要素を含んでいます。特にMRIはペースメーカー、動脈瘤クリップ、人工内耳、歯インプラントなどMRI禁忌のインプラントを装着されている患者さんが数多くいます。近年は様々なMRI検査対応のインプラントが製品化されていますので、より複雑になっています。検査

当日に問題点が発覚した場合、対応不可なこともあるため、当院では、まず検査予約をする際に患者さんの詳しい情報を教えて頂き、さらに検査前日に当院に存在する患者さんの過去データを放射線科でチェックし、検査当日には患者さんから再度問診を行うトリプルチェックをしています。患者さんの中には何度も同じことを聞くなと文句を言われることもあります。そのようなクドいまでの安全チェックで検査直前に検査禁忌であることが判明したことも経験しています。徹底した安全管理を行っている当院放射線部に安心して紹介して頂ければと思います。

もうひとつの当院の特徴は所見にあると思っています。当院の所見は英語、略語（必要な場合は注釈をつけています）を極力使用せず、適切な添付画像を選び、時には1000枚以上になる画像をチェックしないでもわかるような所見になるように心がけています。さらに画像診断で得られる多くの情報の中で重要なことは最初に記載し、より詳しく、そうでないことは簡潔にとメリハリのきいた所見になるように心がけています。また、当院に限らず所見の最後によく「ご精査下さい」、「経過観察して下さい」と記載されますが、精査はどのタイミングで何をすべきなのか、経過観察はどれだけの期間をあけて何の検査をすればよいかを記載することが大事と考え、具体的に記載するように努めています（時には自分にも経験がない疾患で適切なアドバイスをできないこともあります）。なお、先述したように専門医前の医師も所見を記載していますが、自分か矢村先生が責任をもって最終チェックをしていますので、安心して検査ご依頼下さい。

最後になりますが、当院で施行できる検査は、CT、MRI、核医学検査、血管造影、消化管透視になります。ルーチン検査は問題ありませんが、特殊な検査は施行不可な場合もありますので、特殊な検査を依頼される場合はあらかじめ当院放射線科医にご相談頂ければ幸いです。まだ当院に画像検査を依頼したことのない先生方も含め、今後とも画像検査のご依頼をお待ちしています。

わかりやすい 部門紹介

～本館3階南病棟～

本館3階南病棟師長 ^{ひらの}平野 ^{たみこ}民子



本館3階南病棟は、48床の病床を有しています。スタッフは師長、主任、スタッフを含め24名、クラーク1名、また看護業務サポーターが働いています。職場風土は、優しく和やかな雰囲気があり、隣接する3階北病棟といつも協働し

合える関係、協働意識、貢献意欲があるチームです。

診療科別の疾患では、呼吸器内科では肺がんや高齢者の誤嚥性肺炎、消化器内科ではポリープ、大腸憩室出血、胆石・胆のう炎や胆管炎が多くなっています。内科疾患が多い中、外科の腹腔鏡下手術（鼠経ヘルニア根治術、虫垂切除術、胆のう切除術）の患者さんの対応もしています。当病棟の特徴は、内視鏡検査及び治療、抗がん化学療法が多く、1泊2日の睡眠時無呼吸症候群疑いの検査入院、最近では食物アレルギー負荷試験目的の

患者さんの入院もあります。診療科を問わず様々な科の入院があり、短期の入退院への対応や検査・治療による検査室への送迎が多くあります。その中で、丁寧な送り迎えや緊急入院対応等に即応するよう取り組んでいます。

そのため、本館3階南病棟は、内視鏡や抗がん化学療法の知識を深め対応できるよう院内研修を受講し緊急内視鏡等に即応できるスキルの習得・保持や、院内で活躍できるポリバレンタナースの育成を行っています。現在、院内内視鏡認定看護師が5名また検査部門の経験を持つ看護師2名がいます。今年度は3名の看護師が院内内視鏡認定看護師取得に向けてチャレンジ中です。また2名の院内化学療法認定看護師がおり、今年度3名が取得予定です。

今後も「いつでもどこでも組織のリソースになることができる」ポリバレンタナースの育成に努め、皆様から「かかってよかった」と思われる病棟を目指していきます。

昇任のご挨拶

内視鏡検査部長 ^{いわした}岩下 ^{ひろふみ}博文



平素より大変世話になっております。

この度、内視鏡検査部長に就任した岩下博文です。2019年度より熊本地域医療センター消化器内科に赴任し本年度で4年目です。

当センター内視鏡検査部門は、消化器内科医師、呼吸器内科医師、内視鏡検査技師、看護部、事務部

で構成されています。緊急内視鏡検査、治療にも対応できる環境を整えております。

昨年度（2021年度）は内視鏡検査を5856件行いました。大きなトラブルなく遂行できたのも、関係者の皆様方のご協力があったの事と思います。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も安全な内視鏡検査を行うこと、高度な内視鏡処置身にもトライすることをスタッフ一丸となり努めてまいりますので、なにとぞご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします！

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)
☎096-366-1323

編集後記

Y with コロナで、学会活動など世の中も動きだしました。COVID-19の影響で遅れていた病院建築計画が、設計施工会社を選定する段階になっています。各部門ともはりきっています。患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。

K 連携室に、新しくメンズのスタッフが加入しました。なかなかの好青年であり、他医療機関での経験も豊富のようです。今後の連携室強化に向けて戦力となり、背負って立ってくれる期待の星と思っています。

H あっという間に11月を迎えました。朝晩が冷え込み、季節が秋から冬へ変わり始めています。これから年が明けるまでたくさん行事があり、公私ともにバタバタしそうな予感です…。

熊本地域医療センター
理 念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

COVID-19の今後と当センターの病院建築計画… P1
わかりやすい診療部紹介～放射線科～… P2
わかりやすい部門紹介～本館3階南病棟～… P3
昇任のご挨拶… P3
ピアサポート… P4

ピアサポート
～当院のがんサロン・熊本県のおしゃべり相談室のご紹介～

がん専門相談員 さとやま ひろこ
里山 弘子



NHKの「おかあさんといっしょ」からこんな歌が流れてきました。

ころんだら いたかった
いたくて ないちゃった
ないたら とんできて
ふたりで ないちゃった
たのしいことは ふたりぶん
かなしいことは はんぶんこ
「ふたりはなかよし (1991年)」

これはまさにピア（仲間）サポートだと思いました。つらい気持ちを誰かに話せたら、つらさが少し和らいだこと、私も経験があります。

当院のがんサロン「よかことネット」は毎月第一金曜日に開催していましたが、コロナ禍で長期お休みを余儀なくされ、ようやく8月からオンラインで再開しました。一日も早く対面でのサロンを再開できることを願っています。

また、熊本県が「がんピアおしゃべり相談室」を

開催しているのをご存じでしょうか？研修を受けたピアサポーターが個別にお話しをうかがっています。患者さんやご家族で、つらい気持ちを抱えている方がおられましたら、ピアサポートがお役に立てるかもしれません。もし、がんを体験した人とお話をしてみたいという方がおられましたらぜひご紹介ください。がんサロンのようにグループで話すのが負担だという方にはお勧めです。

詳細はお問い合わせください。
(ちらしなどをお送りすることも可能です)

がんサロン「よかことネット」
熊本地域医療センター
よかことネットサポートメンバー
096-363-3311
がんピアおしゃべり相談室
熊本県がん連携サポートセンター
096-373-5558



熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2022年11月28日(月) 19:00～20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加

オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com (※1) までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。
人数制限によりご案内できない場合がございます。
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

(※1) 申し込みアドレス



①症例報告

『脱水による腎前性急性腎障害 (AKI) の2型糖尿病患者の一例
～シックデイにおけるSGLT2阻害剤の中止について～』
糖尿病代謝内科 笹原 誉之 医師

②特別講義

『MRIの撮像法について
(肝・胆・膵領域での撮像を中心に)』
CCO：画像診断

放射線科 矢村 正行 医師